

たたかひの新たなスタートに！

◇全労連・布施恵輔さん（公害・地球懇幹事）

東京大気訴訟和解10周年のレセプションは、この運動が要求をもとに政治の重い扉を開いたことを実感させられました。切実な要求に基づく患者と支援者の運動、訴訟によって勝ち取られたこの和解の意義を今こそ広げなければならないと痛感しています。みなさんの努力に改めて敬意を表したいと思います。

◇川崎公害根絶市民連絡会・有坂直幸さん（公害・地球懇幹事）

最初は裁判勝利実行委員会の会議に出て川崎の経験を発言してもしっくりいかなかった。その後も発言・懇親を重ね、都庁交渉にも同席するなどして連携を強めた。「つどい」では広範な全国的な運動の成果を再確認できた。これからも東京・川崎を軸に首都圏・全国的な運動をすすめ、政府に「新しい救済制度」創設を決断させたい。

◇東京土建豊島支部・相良眞理さん（元東京大気公害裁判原告団事務局）

懐かしい沢山の人に会え、とても良かった。この10年に顔見知りだった多くの患者さん（小澤・森・渡辺幸・高橋・松井さんら）が亡くなったこと考えると淋しくもあった。これからのことでは都議選のあとのいまが大事な時と思う。小池都知事・都民ファーストに対する働きかけを考えてはどうか。いつでも、何でもお手伝いをしたい。

◇千葉あおぞら連絡会・清水和作さん（同会ニュース「あおぞら」から転載）

懐かしい顔ぶれもいて10年前のトヨタ前座り込み行動が昨日の出来事のように甦った。各地の公害裁判と関わってきたが、お隣さんのような親近感と超巨大企業トヨタを相手取った裁判、生半可では勝てないぞ！が重なり合っただの裁判よりも力が入った。多くの方々との出会いや貴重な体験ができた東京大気公害裁判だった。

◇文京連絡会・比留間長一さん（患者会文京支部家族のサポート）

あれから十年の感慨を強くした。懐かしい旧知の方々と楽しい会話が弾み、裁判闘争の歴史に思いを新たにした。日夜を分かたず闘いの先頭に立ち病に倒れた西会長と私は半世紀前に労働組合の活動（共同印刷と共同製本）をつうじ知り合った旧知の間柄。いまでも時折、施設を訪ねている。その姿が見えず残念。国の「医療費助成制度」実現にむけ、新たなスタートになることを念じたい。

◇あおぞら財団・林 美帆さん（同財団研究員）

「つどい」に参加して和解解決に至るドラマチックな展開のウラ側をあらためて知り、東京大気公害裁判の意義を確かめることができた。被害を党派をこえて訴え知ってもらい、問題解決をはかるという経験は公害問題にとり組む運動の基本と考える。これからもこの経験を社会的に広く伝えていきたいと思う。

葛飾青空の会



（横断幕を持って「つどい」に参加）